

**ASCON科学者委員会**  
**機能性表示食品評価報告(2024年下期)**  
**～届出者による自己評価成績の概要について～**

最終修正日:2024年12月25日  
ASCON科学者委員会 事務局長  
山崎 毅  
Takeshi Yamasaki, DVM, Ph.D.

<http://ascon.bz/>



\* 2024年11月30日時点の届出者からの自己評価成績を集計

ASCON科学者委員会評価基準		評価判定 (機能性表示数)
A	有効性について十分な科学的根拠がある (5報以上のRCT論文やシステマティックレビューで有効の判定がある場合、最終製品でのRCTが2報以上の場合))	169
B	有効性についてかなりの科学的根拠がある (RCT論文が2報以上あり、有効の判定が多数の場合、あるいは最終製品でのRCTが1報の場合)	363
C	有効性についてある程度の科学的根拠がある (RCT論文が1報のみ、あるいは2報以上で有効と無効が拮抗する場合)	217
保留	科学者委員会の評価基準では、科学的根拠に達するための追加資料/説明が必要と自動判定された場合に「保留」とする。届出者による総評コメントは製品評価一覧表をご参照のこと。	50

- ・ASCON基準適合率:749/799(94%) 届出情報照会呼応企業:74社/464社(16%)
- ・評価実施率(対象は販売中製品の表示数) 799/3720(22%)

\* 機能性表示評価成績一覧表はASCONホームページをご参照のこと → →



## 信頼できる機能性と安全性の根拠情報がここにある

- 2024年3月に起こった紅麹サプリによる健康被害問題の影響で、機能性表示食品制度自体へのバッシングも多く、そのため多数の届出撤回があったものと推測する。今回、ASCON科学者委員会が評価した機能性表示数も、上期より100件近く減少した。
- 現在でも届出資料は消費者庁ウェブサイトで閲覧可能だが、専門家以外の人を読んでも理解が困難である。他方、ASCON科学者委員会の独自評価基準に沿って行った自己評価結果は簡単な一覧表であり、重要項目(RCTの論文数、被験者数、用量適合性等)を容易に判断でき、エビデンスの強さをABC判定で知ることができる(効果の強さではない)。
- ASCON科学者委員会は、消費者市民が、信頼できるわかりやすい科学的根拠情報をもとに、機能性表示食品を選択すべきと考える。その意味で、本評価判定成績表は、**食品事業者が自ら消費者市民／科学者に対して誠実に公開したエビデンスの要約**であり、信頼できる情報だ。また、機能性表示だけでなく安全性に関しても、届出者によるエビデンスの要約が簡潔でわかりやすいので、参考にしていきたい。
- なお、機能性表示の科学的根拠の妥当性について、ASCON科学者委員会では**用量適合性(臨床論文の用量の2分の1～2倍まで採用;腸内細菌などの機能性成分の場合は、臨床論文の用量の10分の1～10倍まで採用)**、ならびに肯定的論文と否定的論文が拮抗する場合のエビデンス総体の信頼性についても、自己評価基準に組み込んでいる。

- 本評価判定成績へのご意見は事務局まで ➡ [ascon.scientist@gmail.com](mailto:ascon.scientist@gmail.com)

